



IIPS

平和研講演会シリーズ 2005
2005 IIPS Lecture Series
“安定した国際社会の構築と日本の役割”

前米国国務省副長官
リチャード・アーミテージ氏
「最近のアジア情勢と日米関係」
2005年10月19日 於:全日空ホテル

世界平和研究所は、日本財団の協賛を受け、平成17年10月19日、東京全日空ホテルにおいて、リチャード・アーミテージ前米国務副長官による「最近のアジア情勢と日米関係」に関する講演を開催した。

講演の冒頭、アーミテージ前米国務副長官は、アジアには世界の人口大国の多く、そしてエネルギー大消費国が集中しており、軍事力の変化についても顕著であると指摘し、また、中国の台頭について関心が高まっているが、今後、どのような形でそれが進むのかが重要であると述べて、さらに次のように続けた。

歴史的にみると、新たな大国が台頭する時、既存の大国は通常適応が遅れがちとなるが、北東アジアでナショナリズムが非常に大きな勢力を得ていることについて、米国の認識はやや不足している部分がある。一方、中国や韓国などは米国に対して猜疑心を抱いているが、米国も中国の軍事力の増強には大きな疑念を抱かざるを得ない部分がある。また、北朝鮮に関しては、依然として北朝鮮の核保有が事実であるかについては疑問が残っているが、拉致問題への対処と同様、この問題に対し確固たる態度を示すことが必要であることには変わらない。



また、米国は、いかに中国を適切な方向に導くかにエネルギーを使うよりも、アジア全体に対してエネルギーを使うことが正しい方向であると認識しており、このためには、日米関係を最重要の基盤としながらも、各国との関係をテロなどの単一問題だけでなく、より広めていくことが重要だと判断している。

一方、アジアにおいては常に影響力行使のための競争が行われており、実際、中国はアジア地域にきわめて大きな力を注いでいるのだが、近年はODAあるいは直接投資なども用いてきわめて多角的なアプローチを行うようになってきた。また、米国がアジア諸国と築いている多くの協力関係の根幹には米国が提供する安全保障の力が大きな影響をあたえている。

それ故、米国は、近年、同盟関係の再活性化に務めているし、その他諸国ともこうした関係を強化している。

また日本では、現在、憲法九条問題に焦点が当てられているが、十分な議論が日本国内においてなされていないことを指摘しなければならない。とりわけ、日本は世界においていかなる役割を果たすべきかということについての議論が必要である。これがなされれば、細かい問題は自ずと収まり所が見出されよう。また、日米関係は、故マンズィールド大使が述べたように最



重要の二国間関係だと指摘され、両国は互いに緊密な協力関係を構築しているが、そのためには、常に両国が問題を理解しあうと共に、そうした両国の関係を世界に示していくことが重要である。また、存在する問題については、当事者同士が熟慮を重ねていけば解決は見いだせるはずである。アーミテージ前米国務副長官は、以上のような指摘を行って講演を締めくくった後、さらに来場者からの質疑に応じられた。



・この講演会は日本財団の助成事業により行っております。